

熱中症対策ガイドライン 概要

Japan Football Association



①熱中症対策ガイドライン 概要

ポイント:

- ① 試合日は必ずWBGT計にて測定
- ② 試合前・中のWBGT値によって対策を分けて講じる



熱中症
予防



熱中症予防対策

事前準備

- ・過去及び当日のWBGTデータ収集
- ・熱中症に関する知識の習得、情報の収集



(参考) 環境省熱中症予防情報サイト

日本スポーツ協会

JFAフィジカルフィットネスプロジェクト

試合当日

WBGT値により、STEP1・2・3（後述）を講じる

②試合を実施するための対応

■試合前

	試合前予測値(°C)	対応
I	31≤WBGT 運動は原則中止	・当該時間帯にキックオフ時刻を設定しない ・試合中に当該状況が予測される場合は、STEP1、2、3を講じる
II	28≤WBGT<31 厳重警戒	STEP1、2を講じる
III	25≤WBGT<28 警戒	STEP1、2を講じる



■試合中

	試合中実測値(°C)	対応
I	31≤WBGT 運動は原則中止	試合を中止・中断又は延期する！ ※
II	28≤WBGT<31 厳重警戒	高校生以上: STEP1、2+(クーリングブレイク又は飲水タイム)実施を条件に、試合実施可 中学生以下: STEP1、2+クーリングブレイク実施を条件に、試合実施可
III	25≤WBGT<28 警戒	高校生以上: 両チームが事前に合意した場合に限り、飲水タイムを実施することができる 中学生以下: STEP1、2+(クーリングブレイク又は飲水タイム)実施を条件に、試合実施可



※ただし、STEP1+2+3+クーリングブレイクを全て実施した場合に限り、主催者判断で試合を実施することができる

③熱中症予防対策

STEP1 (必須事項)

1

以下の方法を組み合わせ、試合の前・中・後に身体冷却を行う。

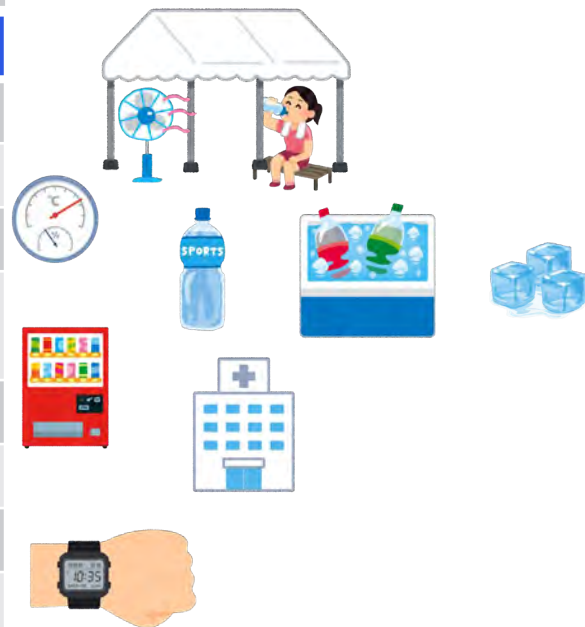
- ・外部冷却：アイスバス、アイスパック、クーリングベスト、ミストファン、送風、頭部・頸部冷却、手掌冷却 等
- ・内部冷却：水分補給、アイスラリー 等



STEP2 (25℃≤WBGTの対策事項)

2

- ① ベンチを含む十分なスペースにテント等を設置し、日射を遮る
- ② ベンチ内でスポーツドリンクが飲める環境を整える
- ③ 各会場にWBGT 計を備える
- ④ 審判員や運営スタッフ用、緊急対応用に、氷・スポーツドリンク・経口補水液を十分に準備する
- ⑤ 観戦者のために、飲料を購入できる環境（売店や自動販売機）を整える
- ⑥ 熱中症対応が可能な救急病院を準備する
- ⑦ クーリングブレイクまたは飲水タイムの準備をする ※飲水タイムには戦術的指示は不可
- ⑧ 試合時間の短縮、ハーフタイムの時間の延長を積極的に検討する



31℃≤WBGTは試合を中止・中断・延期。

※ただし、以下STEP1+2+3+クーリングブ레이크を全て実施した場合に限り、主催者判断で試合を実施することができる

STEP3 (31℃≤WBGTは試合を中止・中断・延期)



- | | |
|---|---|
| ⑨ | 屋根の無い人工芝ピッチは原則として使用しない |
| ⑩ | 会場に医師、看護師、BLS資格保持者、JFAスポーツ救命ライセンス講習会又はJFA+PUSHコース受講者のいずれかを常駐させる |
| ⑪ | クーラーがあるロッカールーム、医務室が設備された施設で試合を行う |

